

新任医師

循環器内科 大越聡子先生

4月より非常勤で循環器内科外来を担当させていただきます、大越と申します。高血圧、高脂血症、不整脈等、お気軽にご相談ください。火曜日の午後に診察しております。よろしくお願いいたします。

乳腺・内分泌外科 朝田理央先生

4月より牛尾病院の乳腺・内分泌外科の非常勤医師として赴任致しました朝田と申します。金曜日の午後診察しております。乳腺や甲状腺のことで何かあればご相談ください。よろしくお願いいたします。

『褥瘡ってなに？』

一般的に床ずれ(とこずれ)といわれますが、医学用語では「褥瘡(じょくそう)」といいます。

褥瘡とは、体の一部が圧迫され続けることで、皮膚に酸素や栄養がいきわたらなくなってしまう壊死(腐ってしまうこと)し、皮膚が崩れていく状態です。

褥瘡は、傷の手当だけでは治りにくく再発もしやすいため、体調のコントロールや栄養状態の改善を行いながら予防や治療を進めていく事が重要です。

褥瘡予防の基本とは？ **発生原因を除去することが必要です。**

- ①同一部位に長時間圧迫がかからないようにする⇒寝ている姿勢を変えましょう。
(褥瘡予防用具:エアマットレスやクッションなどを活用しましょう。)
- ②身体の清潔を保つ⇒おむつは通気性の良いもの、濡れたまま長時間あてないようにしましょう。
- ③皮膚の摩擦を防ぐ⇒体を引きずらない。摩擦により褥瘡が発生することがあります。
- ④バランスの良い食事と適度な水分補給を心がけ、食事量の少ない方は
栄養価の高い食品を摂り、栄養状態を良好に保ちましょう。
※日ごろから着替えや入浴の際に皮膚状態をよく観察し、
褥瘡になってしまったら、医師や看護師に相談しましょう。

～褥瘡対策委員会より～



看護いばらき No.123 (2019.1.18 発行) に掲載された一部です
(茨城県内の看護師対象広報誌です)

地域包括ケア病棟の紹介 (一般病棟 2階)



現在当院は、一般病棟 51 床の中に 32 床の地域包括ケア病床があります。地域包括ケア病床は、在宅(在宅とみなす施設も含む)にリハビリや治療を一定期間(60 日以内)行い、療養環境を整えて退院するための病床です。

地域包括ケア病床のベッド利用率は 95% で、入院患者は在宅から 60%、近隣の総合病院から 20%、施設から 20% の割合です。平均入院日数は 30 日程度で在宅に戻る割合は 6 カ月平均 88.9% です。リハビリは 1 日平均 1 時間程度です。

総合病院からの紹介患者は、骨折で手術した後のリハビリ目的の患者が多く包括ケア病床のリハビリは全体の 70% の方が行っています。在宅に退院する予定の患者は、退院が近くなると職員が患者に帯同訪問して、実際に家に戻った後のイメージを持っていただくため、必要な手すりや介護ベッドなどの準備を行います。退院後に利用するデイケアをイメージできるように、実際にデイケアを見学しリハビリを行うこともあります。介護度に合わせたサービスの提供を担当のケアマネジャーを中心に調整し、安心して在宅生活に戻れるように支援しています。その他、誤嚥性肺炎の治療で入院し、回復傾向にある患者に対しては、言語療法士による飲み込み評価や栄養サポートチームが介入して補助食品の検討を行います。



「人生の最終段階」に移行している患者に対しては、飲んだり食べたりする事が困難な場合は、栄養や水分をどのような方法で行うのか、苦痛を和らげるために鎮静剤の使用を検討したり、心臓マッサージや人工呼吸器などの救命処置を患者個々に合わせて説明します。メリットとデメリットを理解したうえで、納得できる最期を迎えられるよう介入しています。

自立した生活を目指すため、ベッドから離れた生活を基本とし、日常生活の動作を職員と一緒にを行います。また、病院内の多くの職種が同じ目標に向かって支援できるように、週に一回話し合いと情報共有を行い今後の方針を検討します。患者・家族に対し社会福祉士や退院調整看護師が早期に介入し、詳しい説明をしています。

また、法人内の施設代表者が週に一回集まり、施設から入院になった患者の退院時期や施設に戻れなくなった場合の退院先の相談、施設入所中の全身状態に変化があった患者の入院検討をしています。その他、訪問看護・訪問リハビリ・往診など、在宅での医療も継続して行っており、安心して過ごせるよう関わっていきたくと考えております。



退院調整看護師 猪股 純子